

会 議 録

会議の名称	令和6年度 和泉市外部評価委員会
開催日時	令和6年5月27日（月）午後2時から午後4時15分まで
開催場所	和泉市役所3階 3A・3B会議室
出席者	【委員】 （順不同）辻本委員長、中尾副委員長、大野委員、山田委員、多田委員 【事務局】 前田市長公室長 （政策企画室） 企画経営担当：福田課長、中総括主査、江口主査、岸尾主任 【事務局（事業担当課）】 ①（産業振興室） 山村室長 商工観光担当：武市課長、仲総括主幹 農林担当：中島課長、田中総括主幹、山崎主任 ②（久保惣記念美術館） 田中館長代理 橋詰総括参事兼副館長 本村事業振興係長
会議の議題	1 開会あいさつ 2 委員の紹介 3 案件の諮問 4 会議・評価の進め方等について 5 評価対象事業の概要説明・評価 （1）道の駅いすみ山愛の里施設活性化事業 （2）交流拠点施設を活用したまちの賑わい創出・交流人口拡大事業 6 閉会
会議の要旨	・評価方法について、原案どおり決定した。 ・評価対象事業の概要について、事業担当課から説明を受け、質疑応答、評価を行った。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要事項	会議公開 傍聴者なし

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会あいさつ

□司会者（政策企画室）

司会者から次の案内を行った。

- ペーパーレス化を推進するため、資料配布は手元の PC にて行わせていただく
- 配布資料の確認
- 会議録作成について

□辻市長

（市長挨拶）

2 委員の紹介

□司会者

司会者から委員紹介、事務局職員の紹介を行った。

3 案件の諮問

市長から委員長に対し、諮問書が手交された。

（市長、別の公務のため退席）

4 会議・評価の進め方等について

■辻本委員長

次第4に従って、会議・評価の進め方について確認する。事務局から説明願う。

□事務局（政策企画室）

- 会議は一般の傍聴を認め、公開により開催される。
- 評価対象は、「道の駅 いずみ山愛の里 施設活性化事業」及び「交流拠点施設を活用したまちの賑わい創出・交流人口拡大事業」の2事業。
- 1事業ずつ、担当課より説明、質疑応答を行い、委員による評価を実施。

（質疑応答を行ったが、委員から質疑はなかった）

■辻本委員長

では、事務局案にて進めるものとする。続いて、評価方法について、事務局から説明願う。

□事務局（政策企画室）

- 地方創生関係交付金の対象事業に関しては外部有識者による効果検証が求められており、毎年度国に対象事業が「有効であった」か「有効でなかった」のか２者択一での報告が求められる。
- 委員の皆様には、「令和３～５年度に実施してきた事業が、地方創生にどの程度効果的であったと評価できるか」という観点から、「１」から「４」の４段階評価をお願いしたい。

（質疑応答を行ったが、委員から質疑はなかった）

■辻本委員長

質問等ないため、事務局案にて進めることとしてよいか。

（「異議なし」の声あり）

５ 評価対象事業の概要説明

■辻本委員長

次第５に従って、「評価対象事業の概要説明」に移る。

（１）道の駅いすみ山愛の里施設活性化事業

■辻本委員長

「道の駅 いすみ山愛の里 施設活性化事業」について説明願う。

□事務局（産業振興室）

資料３に基づいて以下を説明。

１．各年度の取組について

令和３年度

<道の駅いすみ山愛の里増築等工事>

荷捌き所を備えた農林産物直売所の建築、大型遊具等の設置、駐車場改修を行い、地元農家にとって出荷しやすい環境整備や子育て世帯の来訪促進、来訪者の安全性確保を図った。

委員意見としては、他の施設にはない特色ある商品開発等に取り組むべき、また、交流人口増加によってどのように売上増に繋げていくのか不明瞭といった指摘があった。

<道の駅いすみ山愛の里の運営体制の見直し>

民間活力を活かすため、指定管理料に依存しない運営体制構築や、農産物の販売実績やノウハウを有する指定管理者を選定すべく、サウディング型市場調査を実施し、事業者から条件等に関する意見や提案を求めた。結果、府内で野菜等の販売実績を有する事業者を指定管理者として選定でき、また、事業者の費用負担にて飲食スペースの拡充を行えた。

委員意見としては、農産物等の品揃えが他と比較して劣るため、運営体制強化に努めるべき、また、継続して売上増加を目指すため、市も常にプロモーション等に関与していくべきといった指摘があった。

令和4年度

<道の駅いずみ山愛の里の来訪促進事業>

リニューアルオープンイベントの開催、SNS 等各種広報媒体を活用した PR 活動、各種イベントの開催を通して施設認知度の向上、来訪者数の増加を図った。結果、来訪者数が前年度比 1.5 倍に増加、SNS フォロワー数が増加するなど施策効果が得られた。

委員意見としては、様々な媒体を活用した情報発信に努めるべき、また、より魅力的な SNS づくりを目指すべきといった指摘があった。

<道の駅いずみ山愛の里の販売促進事業>

地場産品を活用したオリジナル商品の充実や、市内産木材を利用した店内レイアウトなどに取り組み、地場産品等の売上増加に伴って、出荷点数も増加する好循環が生まれた。

委員意見としては、今後もオリジナル商品の開発に取り組み、積極的に PR していくべき、また、リピーター確保のため、あえて山愛の里を選ぶような魅力ある取組みを検討すべきといった指摘があった。

令和5年度

<道の駅いずみ山愛の里の来訪促進事業>

市の観光 HP「サトマチイズミ」にバナーを設置し、道の駅特設ページを作成。より閲覧しやすい環境を整備するとともに、市の観光 LINE との連携や広報紙への掲載など様々な媒体を活用し周知・PR を実施。インスタグラムではストーリー機能を活用するなど魅力的な情報発信に努めた結果、フォロワー数が 1,200 人から 2,400 人に倍増した。

<道の駅いずみ山愛の里の販売促進事業>

地場産品を活用したオリジナル商品の開発、新商品の SNS 投稿など PR を実施。イベント開催時には、クーポン券配布などを行い、来訪促進とあわせて販売促進に繋げた。

資料4に基づいて以下を説明。

1. 事業の背景・経過

- ・リニューアル前の販売所は、荷捌き所がなく、十分な品揃えや出品数の確保が困難であった。
- ・来訪者の大半は 50 歳代以上の方で、購買力の強い子育て世代の利用が少ない。
- ・道の駅の運営を同一敷地内の「南部リージョンセンター」の指定管理者が担っており、農産物直売所の運営に関して十分な実績やノウハウを有していない。

2. 交付金事業の概要

- ・交付金を活用し、市内外から多くの人が集う施設としてリニューアル。
- ・交流人口増加、地域活性化、観光資源等の情報発信、地場産品の展示販売により観光振興及び農林業振興を図る。

3. 取組内容

令和3年度の取組

- 交付金を活用し施設リニューアル工事を実施。
- 農産物等のノウハウ及び販売実績のある事業者を指定管理者として選定。

令和4年度の取組

- リニューアルオープンイベントの開催、各種広報媒体による周知・PRの実施。
- オリジナル商品の充実、看板メニューの開発等の実施。

令和5年度の取組

<来訪促進>

- 観光HPと連携し、特産品や施設紹介を掲載。
- 観光LINEと連携し、イベント告知、割引クーポン配布などの情報発信を実施。また、広報紙・SNS等を活用したPR活動を継続。
- 来訪者が少ない平日を対象にしたイベントを実施。

<販売促進>

- イベント時に使用できる割引クーポンの発行。
- 地盤産品を使用したオリジナル商品の更なる充実。
- 商品数の増加に対応できるよう、商品棚の増設、レイアウト変更の実施。

4. 今後の取組内容

<来訪促進>

- SNS等を活用し、最新情報の発信を継続することで、更なるフォロワー獲得や知名度向上を目指し、来訪者数の増加に繋げていく。

<販売促進>

- 昨年度の販売実績を出荷者にフィードバックすることで、時期による売れ筋商品を共有し、更なる出荷量の増加・販売額の増加に繋げていく。
- 地場産品を使ったオリジナル商品の開発を継続し、魅力ある商品の充実、地場産品のPRを実施していく。

5. 地方創生拠点整備交付金の活用

- 令和3年度に、直売所建設に169,033千円、大型遊具の設置等に30,370千円、駐車場改修に24,460千円の合計223,863千円を支出。うち、105,645千円は交付金を充当。
なお、拠点整備交付金につき令和4年度以降の交付金はなし。

6. KPI

- 設定している3つのKPIについて、いずれも目標を達成した。

7. 所管課の評価

- ・ イベント実施や積極的な情報発信により来訪者数の増加が見られること、オリジナル商品の開発や商品数の充実により、売上・来客数の増加が見られることから、「効果的」と評価。

(質疑応答)

■中尾委員

令和5年度は、レジ客数や売上金額の昨年からの伸び率と比較して、出荷点数は伸び率が鈍化している。要因としては、客単価の上昇によるものか。

また、市内・市外の実訪者データやレジ客数の年齢層別データはあるか。

□事務局（産業振興室）

令和4年度は、施設リニューアルにより出荷者数が大幅に増加したため、それに伴い出荷点数も大幅に増加した。令和5年度は、出荷者数の大幅増には至らず、出荷点数についても微増に留まったものと思慮する。

市内・市外や年齢層別のデータは収集していない。以前より子育て世帯の方が増えたという実感は得ているが、データとして来訪者のうち何パーセントが子育て世帯の方かなどは不明である。

■山田委員

広報やクーポン配布、SNS等活用できるものは全て活用して事業を行っている点は評価できる。また、Instagramのフォロワー数増にも着実に効果がでていていると思うが、当初想定していた目標値などはあるか。

□事務局（産業振興室）

当時の外部評価委員会でも、フォロワー数等への目標値設定についてご意見いただいております。当初は1,000人を目標として設定し、1,200人のフォロワー数を獲得できた。昨年度は、さらなるフォロワー数獲得を目指し、指定管理者と協議を進め、2,400人と倍増の結果を得られた。引き続き指定管理者とともにフォロワー数を増やせる取組みを推進していく。

(質疑応答を終了し、各委員による事業の評価を行った(採点表の記入))

■辻本委員長

「交流拠点施設を活用したまちの賑わい創出・交流人口拡大事業」について説明願う。

□事務局（久保惣記念美術館）

資料5に基づいて以下を説明。

1. 各年度の取組について

令和3年度

＜古民家を活用した交流拠点施設＞

美術館近隣の江戸時代後期に建てられた古民家を交流拠点施設としてリノベーションし、イベントや個展等が開催できる環境を構築。一過性に留まらない継続的な来訪人口や交流人口の増加に資する施設が整備された。

委員意見としては、来訪者の囲い込みのため、美術館・古民家間での割引券など検討すべきといった指摘があった。

<音楽を活用した交流拠点施設>

音楽を通して市民とアーティストの交流の場、来訪者への体験の場の提供を目指し事業実施予定も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、イベント等の中止を余儀なくされた。

<WEB交流拠点の導入>

コロナ禍で自粛ムードのなか、WEBを活用した異業種間交流やビジネスマッチングによる協業、ワークショップ等開催業務受注による事業収益化を目指し、公式交流サイトを導入。コンソーシアムの活動やアーティストの情報発信、和泉・久保惣ミュージアムタウンの取組み発信ができる環境が整備された。

委員意見としては、交流サイトの具体的な活用プランの検討や、効率的な情報発信の方法、検証体制の構築が必要といった指摘があった。

令和4年度

<古民家を活用した交流拠点施設>

個展や演奏会、ワークショップ等の開催をはじめ、地元食材等を活用したカフェやショップを運営。また、古民家にて開催のギャラリー展チラシ持参で美術館入場料の割引を実施。

委員意見としては、施設の相互紹介のため、HPへのリンク掲載を行うべき、また、古民家カフェの積極的なPRを通じ地域活性化を図るべきといった指摘があった。

<商業エリア等を活用した芸術交流拠点の実証事業>

エコール・いずみのイベント広場等のスペースを芸術交流拠点と位置づけ、音楽ライブやワークショップを開催。子供から大人まで幅広い年代の方に参加いただいた。

委員意見としては、市内の隠れた文化芸術分野で活躍されている方も参加できるような取組みを検討すべきといった指摘があった。

<WEB交流拠点の導入>

中小企業診断士等の専門家アドバイザーの支援を受けながら、アートコンクールや各種イベントの参加者募集、アーティスト・クリエイター等のPR情報やミュージアムタウンの情報の発信を実施。また、各種イベントのオンライン受付や決済の仕組みを導入。

委員意見としては、コンソーシアムの自立自走を目指すためには、事業計画の実効性や売上等の目標値の妥当性について検証すべきといった指摘があった。

令和5年度

利用者増の取組み及び古民家の有効活用として、美術館・古民家HPに相互リンクの掲載や近隣の散策マップを互いの施設にて配布。古民家カフェのOSAKA和泉市ファンクラブ協力店への加入や、和泉市観光サイト・LINE等による情報発信を実施。

文化芸術振興及び地域活性化の取組みとして、様々な文化芸術分野で活躍されている方にも参加

いただける和泉・久保惣ミュージアムタウンアートコンクールを開催、小学生を含む市内外からの応募があり、10点の入選作品を選定。入選作品が泉北高速鉄道の車両ヘッドマークに掲示されるなど新聞にも掲載された。

目標値の妥当性及び体制づくりとして、今後のコンソーシアムの自立自走を目指すため、コンソーシアム役員等と協議を行い、体制の見直しに着手。地元有志を中心とした大幅なスリム化を図り、フットワークの身軽な体制とし、自立自走を図っていく仕組み構築に取り組んだ。

資料6に基づいて以下を説明。

1. 事業の背景・経過

- ・ 久保惣記念美術館を中心としたエリアを和泉・久保惣ミュージアムタウンと位置づけ、アートを活用した事業を展開し、ブランド力・認知度向上を図り、来訪人口・交流人口拡大によるエリアの賑わい創出、地域活性化を目指した事業を推進してきた。
- ・ これまでも、パブリックアートの設置やアートイベントの実施など様々な取組を進めてきたが、集客効果が一過性に留まっていることが課題だった。

2. 交付金事業の概要

- ・ 人々がアートに親しみ、アーティストやクリエイターが恒常的に活動・活躍できる場所作りとして、WEB交流サイトも含めた交流拠点施設を整備し、交流人口拡大に取り組んできた。

3. 取組内容

令和3年度の取組

- ・ 古民家を交流拠点としてリノベーションし、アーティストやクリエイターが個展を開催できる場所をはじめ、恒常的に集える場を整備。
- ・ アーティストの活動実績などを発信し、企業などから受注や協業といった機会創出のためのWEBサイトを構築。

令和4年度の取組

- ・ 古民家で、個展や演奏会、ワークショップ、セミナーなどを開催。地元食材や資源などを活用したカフェやショップを運営。
- ・ エコール・いずみやその周辺施設などで音楽ライブや作品発表、ワークショップなどを開催。
- ・ WEBサイトを活用し、アートコンクールなどのイベントやワークショップなどの参加者募集及び事業PRを実施。アーティストやクリエイターに関わる情報発信や各イベントなどの活動実績の情報発信を行う。

令和5年度の取組

<古民家交流拠点事業>

- ・ 古民家では、個展や演奏会、ワークショップ、セミナーなどを定期開催。地元食材を活用したカフェやショップの運営を通じて、来訪促進による文化芸術振興のきっかけづくりに取り組む。
- ・ 個展出展しやすい環境整備をし、出展者を効果的に集めるため、広報費用等の一部補助を実施。

<商業エリア等を活用した芸術交流拠点事業>

- ・ 和泉市シティプラザ 20th 記念ミュージックウェーブの開催。
- ・ 学芸員講座付き簡易金継体験ワークショップの実施などに取り組む。

<WEB交流拠点運営事業>

- ・ ワークショップ等のイベント参加募集及び事業PRの実施。
- ・ アーティスト・クリエイター等及びミュージアムタウンの取組みについて継続的な情報発信。

4. 今後の取組内容

- ・ 古民家では、個展や演奏会、ワークショップ、セミナー等の継続、魅力的なカフェやショップの運営に取組み、知名度向上や交流人口拡大を図っていく。
- ・ エコール・いずみ等の商業エリアでは、体験教室、作品展示の実施などの魅力的な各種イベント・ワークショップの実施に取組み、参加者拡大を目指す。
- ・ 情報発信の継続によるアーティスト、クリエイターの活動支援、ワークショップなどの開催を通じた文化芸術振興及びミュージアムタウンの理解・共感の増進に取り組む。

5. 地方創生推進交付金の活用

- ・ ミュージアムタウン事業を推進する団体として官民協働で設立した和泉・久保惣ミュージアムタウンコンソーシアムに対し、市から負担金として3か年で 15,593,000 円を支出。うち、半分は交付金を充当。コンソーシアムは、音楽イベントやアートコンクール、ワークショップ等を開催したほか、負担金を活用し、古民家ヘリノバージョン工事やギャラリー展開催費用の補助などを実施。

6. KPI

- ・ KPI1 及び 2 は目標達成。
- ・ KPI3 について、昨年度比では、130.1%増となるも、達成率 66.7%に留まり目標未達。

7. 所管課の評価

- ・ 各事業において、交流人口拡大が認められることや、WEB 交流サイトを通じた情報発信、オンライン決済の導入など収益化を図る手法が実践できたことから「効果的」と評価。

(質疑応答)

■大野委員

和泉・久保惣ミュージアムタウンアートコンクールは第2回まで開催しているとのことだが、継続して行われる予定か。また、他に継続開催のイベントはあるのか。

□事務局(久保惣記念美術館)

アートコンクールについては当初、小学生の夏休み期間での開催を検討していたが、コンソーシアムの体制を令和6年度から地元有志の方を中心に大きく変更した関係で準備等に期間が取れず、本年

度においては下半期にワークショップなどのイベントを企画しているところ。

■多田委員

古民家でも個展やワークショップ等実施しているとのことであったが、具体的にどのようなイベントがどの程度開催されているのか。

□事務局（久保惣記念美術館）

イベント数としては40以上開催しており、アートコンクール受賞者の個展開催や地元以外のアーティストの方の個展も開催した。そのほかに、マルシェの開催、子どもたちと石を使った図工のワークショップなどを開催している。

■辻本委員長

コンソーシアムの自立自走等の説明を受けたが、地方創生交付金は令和6年度以降どうなるのか。

□事務局（久保惣記念美術館）

交付金は3年間となっており、令和5年度にて終了。今後は、市からの負担金を含めコンソーシアムへの支出はなくなるため、イベント収益や協賛金を募って事業を継続していく。

■辻本委員長

今後コンソーシアムは完全に自立自走して事業を継続していくということか。

□事務局（久保惣記念美術館）

そうである。

（質疑応答を終了し、各委員による事業の評価を行った（採点表の記入））

（事務局にて各委員の点数の集計を行った）

■辻本委員長

「道の駅 いずみ山愛の里 施設活性化事業」の点数は次のとおりとなった。

	KPI1	KPI2	KPI3	合計
KPI達成度について	4	4	4	12

	辻本委員長	中尾副委員長	大野委員	山田委員	多田委員	合計
これまでの取組 に対する評価	4	4	4	4	4	20

この結果、合計が32点となり、100点満点に換算すると100点となった。50点以上となったため、事業評価としては、「有効」となる。続いて、各委員の評価理由やアドバイスを伺っていきたい。

■中尾委員

- 評価理由について、全項目目標達成ということで4点とした。

- 3年間は目標達成となるなど成果を挙げており、今後の参考になるいいデータが多くあると思う。
- 今後は事業継続が重要となり、無駄のない戦略を検討するためにも、購買層や売れ筋商品、どの地域からの来訪者が多いのかなどデータを蓄積していくべき。
- 課題に対する対策として、広報・商品開発・単価設定など挙げられているが、データに紐づいた対策をしなければ徒労に終わる可能性がある。経営状況や余剰資金の度合いなど詳細は不明であるが、全てに対策していくことも困難であると思うので、何を優先課題とするのかといった部分もデータと紐づくものである。
- 市は商工会議所など様々なネットワークを持っているので、今後はそういったものも活かすことで更に来訪者のすそ野を広げられる。
- 商工会議所としても、商工業の活性化プロジェクトを推進している。代表的な地場商品の開発などを目指しているところだが、現状の地場商品には府外の方にお土産を渡そうと思うと、大きなインパクトのあるものが少ない。出張先でも、会社紹介の前に自身の地域の紹介をされ、地場の商品をお土産にいただくといった経験もあり、今後も引き続き地場商品の開発を継続してもらい、和泉市をPRできるような商品を育てていてもらいたい。

■大野委員

- 評価理由について、全項目目標達成ということで4点とした。
- さらに認知度が向上すれば、レジ客数・売上ともに増加し、その結果オリジナル商品の開発にも資金投入でき、出荷点数増に繋がっていくという好循環がうまれると思われるので積極的に推進されたい。
- レジ客数、売上、出品数、オリジナル商品など各項目増加しており、素晴らしいと思うが、伸び率が鈍化している。SNS等引き続き利用し、積極的なPRを実施されたい。
- 実際に施設を訪れたが、トイレが清潔感に欠けるように感じた。清掃等されているとは思いますが、細かなところにも配慮されたい。
- オリジナル商品を購入したが、非常に出来がいいと感じた。完成度が高いのに、まだまだ知名度が低いように思うので、もっとPRに力を入れていくべきである。
- 陳列棚の増設等の説明を受けたが、来訪時の印象としては、飽和状態に感じられた。スペースに限りもあり、出荷点数増に対応していくには更なる工夫が必要と思う。

■山田委員

- 評価理由について、全項目目標達成ということで4点とした。
- 参考資料でもオリジナル商品が充実してきているのは見て取れ、非常にいい傾向。また、フォロー数も着実に増加しており、一過性ではなく地道にファンを増やす取り組みがなされていると感じられ素晴らしいと思う。
- 出荷点数が横ばいに留まっている現状の分析が必要。売上や来訪者は増加しているので客単価が上がっているとも考えられる。
- わざわざ行きたい場所になれているのか、地元客・遠方からの客など来訪者の分析を行うことが重要になってくる。
- この3年間はスタートダッシュの期間としてよい実績となった。これからは成長・拡大の年次に

入ってきたと思う。更なる成長を見据えるためにも新たな目標に向けて事業推進して欲しい。

■多田委員

- ・ 評価理由について、全項目目標達成ということで4点とした。
- ・ オリジナル商品の充実はよいことと思う。市のお土産の定番になるなど更に発展していけばより活性化が期待できる。
- ・ SNS も拝見しており、魅力的なスイーツやイベントなど効果的な発信に取り組まれていると感じる。しかし、特に若者は実際に来訪するまでには至っていないこともあるかと思うので、たとえばスマホに貼れるようなコダイくん・ロマンちゃんのステッカーを配布するなど、より若者をターゲットに来訪促進を進めてもよいのではないかと感じた。

■辻本委員長

- ・ 評価理由について、全項目目標達成ということで4点とした。
- ・ 施設整備の交付金ということで、初年度以降は自立自走しており、実績も、目標値を上回る結果となっておりよい取り組みであったと評価できる。また、外部評価委員会が出た委員意見を積極的に取り入れており、事業評価のシステムが効果的に活用されていると感じられる。
- ・ 今後は、顧客との継続的な関係づくり（CRM）が重要になってくるので、例えば会員制を導入し、顧客属性の把握を行うなど対策を講じられたい。
- ・ 閑空が近い強みを活かし、インバウンドへの対応を強化するなどして平日の集客増や新たな顧客開拓に取り組まれたい。

■辻本委員長

本事業に関して委員全員の評価・意見等が出揃ったため、私の方にて各委員の意見をまとめ、答申を作成させていただく。

■辻本委員長

「交流拠点施設を活用したまちの賑わい創出・交流人口拡大事業」の点数は次のとおりとなった。

	KPI1	KPI2	KPI3	合計
KPI 達成度について	4	4	2	10

	辻本委員長	中尾副委員長	大野委員	山田委員	多田委員	合計
これまでの取組 に対する評価	3	3	3	2	3	14

この結果、合計が24点となり、100点満点に換算すると75.0点となった。50点以上となったため、事業評価としては、「有効」となる。続いて、各委員の評価理由やアドバイスを伺っていききたい。

■中尾委員

- 評価理由について、KPI3 が未達となっているが、活動のなかで上向き基調ではあることから3点とした。
- KPI3の売上について、物販販売等も行いにくい事業形態であり、売上の獲得がそもそも困難であるように感じるため一定致し方ない部分もあるかと思う。
- 3年間の活動としては、ひとまずといった評価かと思うが、独立採算となる今後はどうしていくのか、イベント関係の開催や固定費の回収、協賛金を集めることは可能なのかなど、実現性のある計画となっているのか気になる。
- 商工フェスタでもイベントやワークショップなど行っており、そうしたところとも繋がりをもって一緒にイベント実施するなどしていくことができれば、より効果のあるものになっていくのではないかと感じた。

■大野委員

- 評価理由について、KPI3 が未達となっていることから3点とした。
- KPI3 について、当初は音楽を活用した交流拠点施設も活用した上での目標設定であったとのことで、未達は一定致し方ない部分もあると思う。
- KPI3の売上は目標未達となったが、R4 を上回っている点や R4・R5 の売上合計が、R5 目標売上を超えている点は一定評価できる。
- 古民家について認知度向上の取り組みが必要と感じた。たとえば、古民家でイベントを行う際に、道の駅で案内の掲示を行ったり、道の駅の商品の販売を行ったりなどでできれば双方にとって認知度向上にも繋がると感じた。

■山田委員

- 評価理由について、KPI3 が未達となっていること、今回の説明内容からは自立自走が見込めるとは評価できなかった点から2点とした。
- 本事業は、交流人口の増加に対してはよい効果があったと思うが、売上という目線で見ると、協力金収入に頼った形態から脱却しきれていない面など自立自走という点では厳しい評価となる。
- 体制の見直しを行ったという説明があったが、それも重要であると思うが、自立自走を目指すためのアプローチとしては最善策ではないと思う。むしろ事業が縮小していくような印象を受けるので、それよりも売上増を目指せる施策が欲しい。事業を継続していくのであれば、自立自走にポイントにおいて有効策について協議が必要。

■多田委員

- 評価理由について、KPI3 が未達となっていること、今後の増加も見込めないことから3点とした。
- 古民家の改修によりアーティストにとっては利用できる場ができ、実際に個展等も開催されているので効果があったと評価できる。しかし、アートに興味を持っている一般の方へのアプローチや興味を持ってもらうための取り組みが少ない。今後、市の関与が減少すると、更に来場者が減少していくと思われるため、どう増やしていくかが課題になると思う。
- SNS を拝見していると、フォロワーは一定数いるが、古民家とラポラトワでばらばらにアカウントが作成されており、統一感に欠けたり、フォロワーも分散していると感じる。一本化するなど

して効率化を図ることも検討できるのではないかと思います。

■辻本委員長

- 評価理由について、KPI3 が未達となっていることから3点とした。
- 本事業については、新型コロナウイルスの影響から事業内容の変更を余儀なくされるなど、困難な状況下のなかで、可能な限り事業に取り組んできたと評価できる。
- 交付金の終了に伴い、今後はコンソーシアムへの市からの負担金支出はなくなるとのことであるが、美術館は和泉市が誇る重要かつ良質な観光・文化資源であり、古民家やミュージアムタウンの取組みにおいてそうしたブランド力が低下していかないようにするためにも、引き続き市にはイニシアチブをとり関係性を維持しながら事業を推進していかなければ。

■辻本委員長

本事業に関して委員全員の評価・意見等が出揃ったため、私の方にて各委員の意見をまとめ、答申を作成させていただく。

他にご意見等ないようであれば、これにて、市長から諮問された事業評価を終了する。なお、答申（案）の作成については、委員長の私に一任いただき、後日、メール等で内容を確認していただいた上で、市長に答申したいと考えているが、よろしいか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、本委員会における事業評価はこれにて終了する。事務局から報告事項等はあるか。

□事務局（政策企画室）

事務局から、今後のスケジュール等について報告した。

- 6月中旬ごろ、委員長と相談のうえ答申（案）を作成
- その後、委員の皆様を確認いただいたうえ6月中旬に答申書を完成
- 7月中旬に委員長から市長へ答申書の手交
- 具体的な日程等は、決定次第メール等でご連絡する
- 本日の議事録についてもメール送付するのでご確認いただきたい

□市長公室長

（市長公室長 あいさつ）

□事務局（政策企画室）

それでは、これをもちまして、和泉市外部評価委員会を閉会いたします。委員の皆様、長時間にわたり誠にありがとうございました。